



日々新聞 第七号

東京小石川原町に無祿の士族鈴木定次郎
 の兇盗の爲小牧善三郎一事實といふやを
 明治八年弥生の末三日午前時ある頃ありて
 花小嵐のゆらぐ敷く落散り有る割魚刀を
 奥區四等出仕石川金造 命と堂入り足し二枚揚げ
 ばくく詠め又足跡の向うを暮れひ鞭打り
 駒込の斤町富川与八が其日庖丁を齧り小手掛りを
 りとめ定次郎が二十長え助と和せざる
 たり定次郎は小心陰長え助を
 招き跡堂首を捜まが
 定次郎の衣服をとして出て
 犯人二十手掛り直に捕縛
 せられ一室買ふ天暴悪を
 示は早く長才の巡査由一
 懼へ事あるるる

名源池

貞信画

九一

